



最後まで諦めないこと 受験勉強は孤独で、はっきり言ってしんどい

関西大学 文学部 合格【一般選抜】 2021年度卒業

私は第一志望の総合人文学科に合格しました。本格的に受験勉強を始めたのは高校3年生になってから。最初は何をしていたかわからず、模試の結果も悪かったです。夏休みは、勉強の習慣を続けることができなかったのも、映像授業で勉強の習慣をつけました。映像授業で集中力を高めて、その後の勉強に取り組みました。主に英語は文法と長文、国語は古典単語と古典文法、日本史は基礎的な用語と流れを意識して勉強しました。

しかし夏休み明けの模試の結果は思うように伸びず、本当に夏休みの成果がでていないのか分かりませんでした。滑り止めとして公募制推薦を受けた時も1校不合格で勉強法に自信を持てませんでした。そこで12月頃は苦手教科中心の勉強、1月頃は毎日過去問を解くことにしました。過去問では、最初の頃は合格最低点に届かないことがあったけど、合格最低点を超えることが多かった時は自信につながりました。その自信をモチベーションに1日最低でも12時間以上勉強しました。

私が一般受験において伝えたいことは2つあります。1つ目は過去問の分析を徹底的にすることです。過去問の傾向を知っておくと本番で焦ることがないです。2つ目は最後まで諦めないことです。受験勉強は孤独で、はっきり言ってしんどいです。それを乗り越えるには諦めない気持ちしかないと思います。

神戸薬科大学 薬学部 合格【一般選抜】 2021年度卒業

私がこの進路を選んだ理由は、薬剤師の資格が欲しかったことと、大学で化学を学びたかったからです。高校への進学時は、進学総合コースを受験しました。高校1年生の時に進路について考え始め、大学でも化学を学びたいと思うようになりました。進路実現のために理系コースに進む必要があったため、編入試験を受け、2年次はアドバンス理系に属しました。どうしても大学受験に向けてSコースで勉強したかったので、2年で学力をつけるよう努力し、3年次にはSコース理系へ編入することができました。

受験勉強を本格的に始めたのは3年生の夏休みからです。学校のワークなどを使って主に基礎を固めました。11月に公募推薦があり、英語・化学の2科目で受験し、他の大学の薬学部やその他大学の理学部に合格しましたが、志望校に合格することができませんでした。そのため、12月以降は一般入試に向けて切り替えて勉強しました。一般入試は前期、中期、後期とチャンスがあったので、たとえ不合格でも後期までやりきるつもりでいました。英語は前期まで、数学は中期まで、化学は後期まで必要だったので、化学>数学>英語の優先度で勉強しました。年明けの共通テストでは、よくない結果（特に数学）だったので、試験3週間前からは化学：数学：英語を4：4：2くらいの割合で取り組みました。私は塾に通っていませんでしたので、自由登校となった3学期からはほぼ毎日学校に来て、過去問を解く→解き直しをする、を繰り返しました。分からない問題は、先生に質問して教えてもらいました。直前に新しい問題に触れて解けなかったら不安になるので、1週間前からは新しい問題は解きませんでした。前日は好きな分野の問題を解いて、とにかく不安を残さないように当日を迎えました。私は、模試の判定は良くてもD判定でしたが、それでも合格できたので、諦めないことは大切だと感じました。

3年生は、これからが正念場です。進路が内定した人もいますが、周囲には今必死に頑張っている人たちがいます。私も高校3年生のこの時期、一秒でも時間がもったいなく、集中して勉強に向かっていました。その経験は、大学生活、社会人となっても根底のところまで生かされました。「**体験から学ぶ**」という言葉がありますが、「**受験勉強は、体験そのものである**」と言えると私は思います。

1、2年生の皆さん。2人目の卒業生の高校3年間でどう思いますか。何のために学ぶのか。そのための条件をどう整えていくのか。思っていて実践しないと、実現しません。誰もがこの生徒のようにできるものではありませんが、負けたくはないですね。「強い心」で、夢・志・目標を持ち続けましょう。

体験からの学び 為末 大(ためすえ だい)400mハードル メタリスト

体験を振り返り、自分にとっての意味を見つけることが、学びの一步

体験を学習で終わらせず、「学び」へとつなげるために大事なのが、「要約する」というステップです。私たちは体験したことを、そのときの感情や印象によりバイアスのかかった状態で記憶します。つまり、その体験が自分にとってどのようなものであったという意味づけが重要だということ。一般的にどうかではなく、自分にベクトルを向けながら体験を振り返ることが大切です。興味深いけど、同じ体験をしても、何が響くか、何を学ぶかは人それぞれだということ。特に教育や子育てのシーンでは、大人が「こうあるべきだ」という思い込みを捨て、「子どもが面白そうに取り組んでいるならOK」と思うことも大事じゃないかと思います。

体験を学びに昇華させるためには、それを補足する知識も必要です。新しい知識に出会ったときに、過去の体験と結びつけて「あれはこういうことだったのか」と腹落ちする。知識として知っていたことを実際に体験して、「これがあれか」と実感する。私自身、現役時代には「体験」が中心の生活をしていたので、引退してから、こうして具体と抽象が結びつく瞬間を何度も経験してきました。学校教育も同じだと思うんです。これまで日本の教育では体験や活動が足りず知識偏重・内省型だったという反省のもと、アクティブ・ラーニングなどの学び方が取り入れられています。でも、これまでの教育が悪かったわけでは決してありません。大事なものはバランスです。体験後にモヤモヤと考える時間も必要で、すぐにかたちにならないことも忘れてはならないでしょう。

これからは、学び続けながらパフォーマンスを高めていく時代です。「学び方」を学ぶことが大切であり、子どもたちはまさに、体験を通して学び方を学んでいきます。そんなときに大事なのが問い。「どうしてそう思ったの?」と、生徒自身に考えさせ、言葉を引き出す問いかけを、ぜひ実践していただきたいと思います。

「知識」と「体験」のバランスが大切であり、**体験を振り返り、自分にとっての意味を見つけること**の重要性がわかったと思います。

社会が求めている人材とは何か？ 県高等学校進路指導研究会私学部会研修 土橋氏の講演より

「専門的・実学的能力を高める上で土台となる、幅広い教養と論理思考能力を育成するために必要な基礎学力を有し、知識の量だけではなく、社会的視野を持ち、大学での学習に対する意欲と熱意があり、多様な背景を持つ者と協働して学ぶ寛容の精神と主体性を持ち合わせ、優れた感性と特性を持った学生」（同志社大学）

「夢に向かって果敢にチャレンジし続けられる人。素直な心、ひたむきさを持っている人。グローバルな視点を持っている人。」（京セラ 求める人物像）

以上のように、社会や大学は、主体性や知的好奇心、向上心を有している生徒・人材を求めています。また、「今後の社会の展望と求められる力」については、社会の動きに目を向けるとともに、

- ①武器となる**専門性**がある
- ②**幅広い教養**を有している（背景：知識の関連付け）
- ③**主体的**に動ける
- ④時代の変化に合わせて**臨機応変**に動ける
- ⑤**コミュニケーション能力**がある

このような社会の求めに応じるため、文部科学省は新教育課程などを編成してきている。今年の1年生から学んでいる新教育課程は、学びとしては今年度から本格化したけど、すでに社会が求める力は、これまでも入試等で求められてきており、特に「**主体性**」は、昨年度の入試でも今年度入試でも大変重視されている。

総合型選抜（旧AO入試）や学校推薦型選抜の志望先大学等に対して、受験生が示すべき点は、

①**入りたい意思を明確に示すこと** ②**将来像の具体性** の2点。小論文や志望理由書、面接などにおいて明確に示すことが合格の前提となる。また、**英検等の上位級の取得**も重要である。多くの大学で総合型選抜や学校推薦型選抜へのシフトが進む中、皆さんはこの点を真っ先に意識してください。新聞の社説などを使用した小論文対策は、**表現力と幅広い教養**（知識の関連づけに不可欠）を身に付けるのに有効である。

進路に関する取り組みの予定（3学期）

◆3年生		◆2年生		◆1年生	
1月5日～	共通テスト直前対策	1月10・14日	進研模試	1月10・14日	進研模試
1月14・15日	共通テスト	1月11日	進路希望調査、実力診断テスト	1月11日	進路希望調査
1月下旬～	私大一般選抜	1月23日	小論文模試		実力診断テスト
2月下旬～	国公立2次試験	2月4日	共通テスト模試	3月8日	小論文模試

【裏面へ】

進路実現のために、また社会に出るために、どのような力や生き方が求められているだろうか？

1 年生 学問分野別進路ガイダンス(12 月 9 日) 第 1 学年企画

1 年生の今回の進路ガイダンスの目的は、「各自が関心を持つ学問分野について具体的に考える機会を設けることによって、進路目標を主体的に考えること」でありました。学問分野は、経済学、商学・経営学、被服学、文学・心理学、薬学、医療技術学、外国語学・国際関係学、社会学、機械工学、情報学、看護学、栄養学・食物学、児童学、教育学、美術・デザイン、音楽、法学、体育学の 19 分野で行われ、1 人が 3 分野の話をそれぞれ 30 分ずつ聞きました。15 大学から教授等に来ていただき、自大学の特徴の紹介も含めながら、それぞれの分野で学んでいること、将来の職業など、具体的な説明がありました。

例えば、薬学の話では、大学の科目と高校の科目との関係の説明があったり、音楽では、実際に音楽の専門分野に就職するのは約 7 割だが、音楽はコミュニケーション力を培うので、それを生かした企業への就職などもあり、結果として全員進路が決まっているなどの話があったりしました。聞いた内容をレポートにまとめながら、大変熱心にガイダンスに参加していました。

2 年生 大学等進路希望別の進路ガイダンス(12 月 13 日) 第 2 学年企画

2 年生は、進路目標がかなり絞られてきていることから、進学希望が多い大学や専門学校などに学校へきていただき、大学や専門学校ごとにブースを設けて学校の概要や入試制度などの説明を聞きました。大学・短期大学・専門学校合わせて約 100 校が来られ、高知大学・愛媛大学などはオンラインで実施しました。

25 分ごとに交替して、1 人が 3 つの説明を聞くことができ、多くの情報が得られたと思います。高知大学のオンライン説明では、大学が求める学生像や面接試験・志望理由書で求められることについて、担当者から「自分のやりたいことを自分の言葉でしっかり表現できることが大切」「この大学で何を学びたいか、具体性が必要」「高校で何を学んできたか。高校での学びを語れるように」などのアドバイスがありました。また、就職希望者に対しては、礼の練習など具体的な就職対策講座を行いました。



どのような大人になるか？

進路指導部 進路係 岡田

皆さんは、どのような大人になりたいと考えていますか？また、考えたことがあるでしょうか？

2022 年も 12 月となり、3 年生の皆さんは進路という自らが決めた目標に向かって頑張っていることと思いますし、1・2 年生はそんな先輩の姿を見ながら、勉学や部活に励んでいることでしょう。このように皆さんは高校生活を通して社会に出るための準備をしているのだと考えると、先ほどの質問は常に皆さんにつきまとうものではないかと思います。

皆さんは、ロバート・ベーデンパウエルという人を知っているでしょうか？彼はイギリスの軍人で、ボーイスカウト・ガールスカウトの創始者でもあります。そんなロバート・ベーデンパウエルは著書スカウティングフォアボーイズの中で、子供たちに向けてこんな言葉を残しています。「幸せになるための第一歩は、少年であるうちに健康で強い身体を作っておくことです。そうすれば、世の中の役に立つことができ、おとなになったときに人生を楽しむことができるようになります。（中略）幸せになる本当の道は、他の人たちを幸せにすることです。この世界をあなたが生まれてきたときよりもほんの少しでも良いものにして残すように努めてください。そうすれば、死ぬときがきても、とにかく自分は無駄に過ごすことなく、最善を尽くしたと感じながら、幸せにこの世を去ることができるでしょう。」

皆さんはこの言葉をどうとらえるでしょうか？ 私は、この言葉を読んだとき、誰かの役に立つことの大切さを理解したような気がしました。皆さんはどのような大人になりたいですか？改めて考えてみてほしいと思います。

ボーイスカウト活動

「ボーイスカウトと聞くとイメージするのはキャンプやハイキング、そして街頭募金などと言われます。ボーイスカウト活動は、野外で、子どもたちの自発性を大切に、グループでの活動を通じて、それぞれの自主性、協調性、社会性、たくましさやリーダーシップなどを育てていきます。」

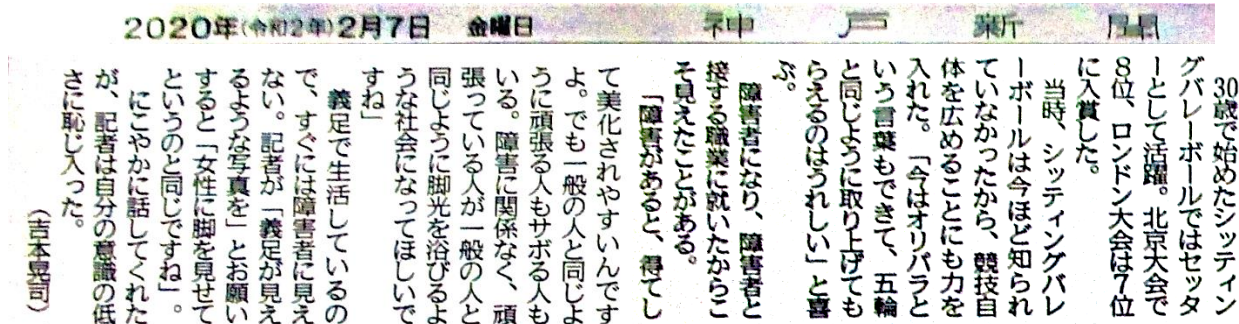
引用：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 HP

どのような進路を選び、どのような生き方をするか？ 根底を考えて見よう！ 進路指導部長 片岡

皆さんのこれからの生きる指針、目標は何でしょうか。それを既に見つけている人、迷っている人、また、進学してから考えるという人もいるでしょう。現在の激動する社会においては、就職しても永遠にその仕事を行えるとは限りません。新たな壁にぶつかった時に、何をよりどころに生きていく、頑張っていくのか。つまり、生きがいや、働きがいや、どのようなところに求めるのかが、重要です。

「自分のために生きる」「家族のために生きる」「お金のため、生活のために働く」「社会の役に立つために働く」など、様々な考え方がありますが、私は、「**自分のために働き、生きること**」と、「**社会や人のために働き、生きること**」の両方が必要で、そのバランスが大切だと思います。

私が教員となって初めての卒業生に、病気で片足を無くした女子生徒がいました。彼女は、中学校三年生の時にソフトボール部のエースで活躍していましたが、高校入学の前に発病し手術してから入学しました。天国から地獄への高校生活のスタートでした。しかし、三年間頑張り続け、大学に進学し福祉を学び、福祉施設に就職しました。もともと、運動が好きで、運動能力も高かったのですが、三十歳の時に、座ったままの姿勢でバレーをするシッティングバレーボールに出会い、障害者スポーツを始めました。北京、ロンドンで開かれた、パラリンピックにセッターとして出場し、まず一勝することを目標に頑張り、活躍しました。彼女は三年間義足を付けて高校生活を送っていましたが、明るく前向きに頑張っている姿が印象に残っています。親しい友人であった数人は、彼女の生き方の影響もあり、卒業後福祉施設に就職しました。このように、自分のためにしっかりと生きている生き様は、周囲の人の生き方にも影響を与えます。まさに、彼女は、自分のために生きるとともに、社会のために生きていると言えるのではないでしょうか。



また、先日、本校が連携協定を結んでいる神戸親和女子大学（令和 5 年度からは共学）の連絡会に出席しました。この会で、就職が内定した大学 4 年生 3 人の大学生活の話がありました。3 人とも明確な目標を持ち続け、深い学びや人に出会い、就職を決めていました。そのうちの 1 人は、中学校の国語の教員採用試験に合格していました。高校生のころから教育や福祉、子どもに関わる仕事に就きたいと考えていたようです。大学 1 年生で児童館でのボランティア、2 年生からはガイドヘルパー資格取得や中学校スクールサポーターなど自分の夢の実現に向けての具体的な体験を積み重ねています。大学での勉学だけでなく、実践的な教育支援活動を行うことが、教員採用試験の合格に大きく影響しています。

生き方や目指す職業が見えてきたら具体的に行動すること、またその行動によって新たな発見があり、目標や課題が明確化していった、進路実現に結びついていきます。**高校生活においても、基礎学力をつけるとともに、目指す職業や仕事の中身について調べ、ある程度の専門的知識を得ていくことも大切です。**

2 年前に卒業した皆さんの先輩で、児童福祉についての知識を深めるために貧困問題についての書籍を読み、実際に子ども食堂に取材に行き、そのことを小論文を書いて、第一志望大学に合格した人がいました。社会や大学が求めている力は、基礎的な学力とともに主体性・積極性、行動力・実践力などです。前者は、主に授業で、**後者は総合的な探究の時間や部活動、またリベラル講座や人権教育などの講演会などの機会を有効に活用して、思考を深めたり、内容を振り返ったりして、自分にとっての意味を見つけることです。**表の為末さんの文章は、このことを言っています。1 年生が 11 月 20 日に行った神戸マラソンボランティアからでも、走っている方々の姿から様々な人生を想像しながら、自分自身の今後の人生を考えて見ることもできます。

